

7. 横矢板入れ

(1) 準備

1) 作業概要

矢板面積 500 m²

矢板の厚さ 35 mm

平均切断寸法 1.15 m

使用工具：ハンマー、スコップ、ツルハシ、携帯用丸鋸

保護具：保安帽、安全帯、長靴、安全靴

2) 有資格者の確認をする。

a. 土止め支保工作業主任者。

b. 玉掛技能講習修了者。

c. クレーン運転士、5t以上免許、5t未満特別教育修了者。

3) 掘削深さが1.5m程度以上になった場合には、昇降のためのはしご、登りさん橋等の昇降設備を設ける。

4) 矢板仮置場の確保。

5) 横矢板の所要厚さは、通常親ぐいの間隔、掘削深さ、土質等によって異なるので仕分けをする。

(2) 本作業

1) 矢板を入れる所の長さを測る。

a. 横矢板は、親ぐい(H鋼)のフランジに十分かかる長さのものを用いる(3cm以上)。

2) 裏の土を矢板が入る程度掘る。

a. 矢板をパッキング(こま)で締めることができる線まで垂直に、かつ、一直線となるように掘削し、矢板を取付けたときに裏が空かないようにする。

b. 矢板裏の余掘をしない。

3) 矢板入れ(根伐底より矢板1枚分掘下げる)。

a. 機械掘削と併行して作業を行う場合には、作業分担区域をきめ、機械の稼動範囲内に作業者が立ち入らないようにする。

b. 1回の掘削深さは矢板をH鋼にはめ込むことができる程度(すでに入れた矢板の下端から50cm程度)までとする。

c. 水の出るところでは矢板と矢板との間隙を開けない。

4) 裏込めをする。

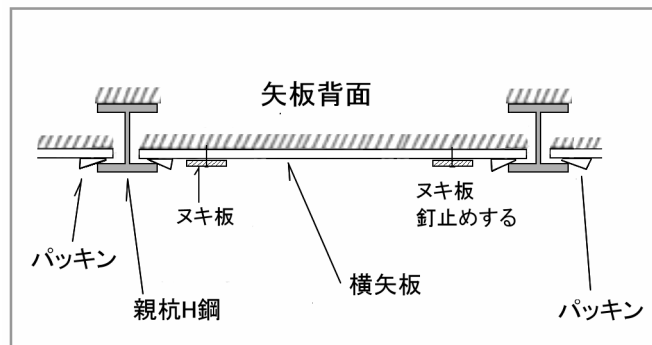
a. 矢板は親杭へのかかりしろ25mm~30mm以上とする。

b. 矢板を差込んだら、1枚ごとに土(砂まじりの粘土)を入れて十分に締め固める。

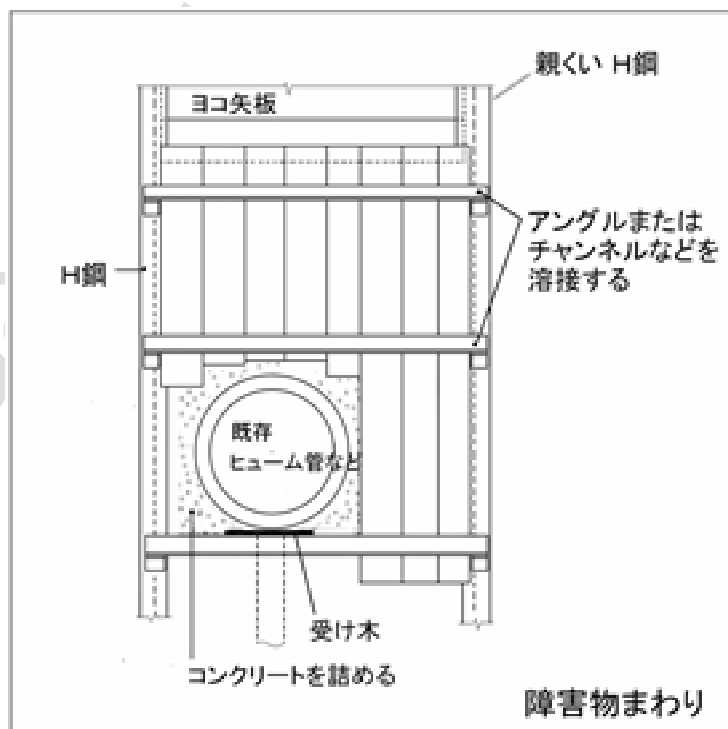
5) キャンバー締めを行う。

a. パッキングを打込んでガタがあるときは裏込め矢板を用いて裏から締める。

- 6) キャンバー押え桟木を取付ける。
 - a. 矢板を深さ 1.5m 程度まで建込んだら矢板押え用の「ヌキ板」（巾 3cm、厚さ 1.5cm 程度）を矢板両端に釘止めをする。
- 7) H鋼とH鋼との間隔が正規の寸法より大きくなれば、矢板の間にバタ角を入れる。
 - a. 間隔が開いている場合に矢板 3枚に 1本、2枚に 1本というように補強用のバタ角を入れる。
 - b. 必要以上に間隔のある場合は、チャンネル等をH鋼に溶接し、それとバタ角にクサビを入れてとめる。



- 8) 埋設物周りの矢板の補強をする。
 - a. 埋設物周りは、間隙が生じないように完全に矢板などでふさぐ。
 - b. 埋設物周りが漏水しているときは、ワラ、杉の葉または土嚢袋を詰め込んで土砂の流出を防ぐ。



- 9) 矢板面をハンマーでたたき空隙の有無をチェックする。
- a. 裏込め土は充分押し込み地山と矢板の隙間のないようにする。
 - b. 矢板入れ後、キャンパーで締める（地山が移動始めるとキャンパーが落ちる）。
 - c. 矢板面より水が出る時は土砂の流出防止の処置をする。
 - d. 掘削が進んだ所まで必ず矢板を完成させる。
 - e. 矢板面をタタキ裏込めの状況をチェックする。

(C) Bandou kenchiku koubo.